

足立区立扇小学校
学校長 池野 正信 様

足立区立扇小学校
開かれた学校づくり協議会
会長 清水 康弘

令和5年度 学校関係者評価

1 自己評価全般について

【学力向上】

○4月に実施される区の学力調査の通過率の目標が達成できず少し下回っているのは残念。学年差がかなりある。年度によって良い、悪いの波はあると思う。OJTや教員の日常的な授業改善、組織的な学力向上の取組としては朝の学習や放課後の補習、かけ算検定を行っているようなので学力の底上げ及び定着を期待したい。また、AIドリル、学校図書館の活用率は高い数値なのでこれがどう学力に結び付けていくのかも楽しみ。

【豊かな心】

○「自分には良いところがあると思う」の項目が目標を上回ったのは、「できた」「わかった」を合い言葉にした授業改善や、行事などで自分のよいところを見つけられる活動を取り入れた、学校の努力と工夫によるものだと思う。子供の良いところを見出すこと、勉強だけじゃなくてその他の分野で得意な分野を見つけ出すことはすごくよいことだと思う。そうやって認められて褒められると、子供たちは良いほうに変わっていくこともあるんじゃないかなと思うのでどんどんお願いしたい。
また、「どうせ自分は」と諦めているその子たちも含めて自分たちが挑戦して可能性を見出せる、自信をもっていけるような日頃の指導を学校だけでなく、家庭、地域と連携してやっていけるといい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

○重点課題1について

4月に実施される区の学力調査の通過率（区が示した目標値を超えた児童の割合）を目標80%以上としていたが、国語、算数とも届かない結果であった。（国語76.7% 算数77.9%）AIドリルの活用や教員の授業改善、朝学習や放課後の補習、かけ算検定など学力の底上げ及び定着を図っているので継続してほしい。

○重点課題2について

「自分には良いところがあると思う」の項目が目標の80%を上回り、83.2%になったのはよかった。自分たちが挑戦して可能性を見出せる、自信をもっていけるような日頃の指導を学校だけでなく、家庭、地域と連携してやっていくという報告はうれしかった。

○重点課題3について

児童アンケート「授業がわかった」の項目が90%以上という目標に対して90.6%とわずかに上回っていた。今後、復習の場の設定や、意図的な振り返りの活用、課題解決型の授業改善などをするというのでお願いしたい。

3 その他

【学校教育の取組や学校施設について】

- 校長先生が先頭に立ったり、後ろから見守ったりしながら扇小学校の職員が一丸となって子供たちの教育に力を注いでいるのを感じる。
- 重点的な取組事項 2の「自己肯定感の醸成」の大切さに共感します。子供のころから自分自身の存在価値や責任について学んだり、気付いたりする取組は、大人になって社会に出た時にとっても役立つ。
- 「ありのままの自分を肯定する感覚」、他者と比較することなく自らの価値を認めてそれとなく雰囲気や気分などを作り出すのは、すばらしい事だと考える。子供は「ほめて」育ててほしい。

【教員の授業について】

- 児童アンケート「授業が良かった」が増えたのは先生方の努力と工夫によるものだと思う。子供たちが授業に参加しやすいような促し方や飽きさせない工夫がみられた。
- AIドリルに自主的に取り組む児童が多いことに驚いた。時代の変化に対応するような授業改善など教員の苦勞が絶えない中、「うまくいったことに共有した授業改善でお互いの意識を高めている」という効果に期待したい。
- 「できた」「良かった」を合い言葉の授業改善に期待する。家庭においても合言葉で実行できたらよい。

【子供たちの様子について】

- 挨拶ができ、明るく一人一人が学校生活を楽しんでいる。
- あいさつ運動に参加した時、登校時間に間にあう子は元気にあいさつができています。ただ、遅刻気味の子供は挨拶にも活気がないように思えた。「やる気」「頑張れる子」に全員がなれることを期待したい。
- 宿題提出率の低さが気になった。目標に対して16%も低い。各家庭に協力を依頼することへの難しさを感じる。
- タブレットが身近で関心のあるものであるように感じた。それが学力の向上に直結するのかはまだわからないが、その道具を使う経験値が増えていくのはよい。
- 「早寝早起き朝ごはん」は子供たちだけの責任ではないと考えます。大人（親）が自覚しない限り課題は解決していかない。